

3 被葬者の階層について

ここでは、墓の形態や出土した遺物から本遺跡に埋葬された被葬者の階層について若干の考察を行なつてみたい。

まず、墓の形態についてみると、今回確認したものはすべて土葬墓であり、円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓によって構成されている。埋葬当時の地表面の状況は明らかではないが、墓の分布状況から判断すると、大規模な塚などは伴わなものであったと考えられる。

一方、出土した遺物には銭貨、和鏡、煙管、剃刀、陶磁器、漆器、櫛、数珠、提灯、その他の木製品などがある。これらの遺物は本墓域を営んだ人々の生活を反映しているものと考えられることから、被葬者の階層を推測する上でも重要である。

次に、県内で確認されている近世墓のうち、多数の墓がまとまって検出されている仙台市新妻家墓地・⁽¹⁰⁾ 泉崎浦遺跡、瀬峰町下藤沢II遺跡の調査成果と本遺跡の成果とを比較してみる。

①仙台市新妻家墓地

17世紀後半～19世紀の墓25基が確認されている。墓の形態には甕棺墓、円形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、刀、鏡、煙管、銅鑼、陶器、漆器、櫛、土人形などがある。当該墓地は伊達家の家臣であった新妻家、千葉家の墓域であることから、被葬者の階層は武士階級であるとされている。

②仙台市泉崎浦遺跡

17世紀中頃～19世紀にかけての墓31基が確認されている。墓の形態には円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓があり、出土遺物には銭貨、柄鏡、煙管、鉄、陶磁器、漆器、櫛、箸、提灯、折敷、数珠などがある。被葬者の階層については明らかにされていない。

③瀬峰町下藤沢II遺跡

17世紀前葉～19世紀後葉の墓が28基確認されている。墓の形態には塚を伴うものと墓壙のみのものがあり、出土遺物には銭貨、和鏡、陶磁器、煙管などがある。当該墓地は瀬峰町藤沢字下藤沢地区の旧家である門脇家の墓地であり、その総本家は「上の庄屋」と呼ばれているという。

さて、本遺跡で検出した墓の形態や出土した遺物を上記遺跡のものと比較すると、泉崎浦遺跡で確認されているものと非常に類似している。また、下藤沢II遺跡とは墓の形態に違いが認められるものの、出土した遺物については本遺跡でも同様に認められる。一方、新妻家墓地では甕棺墓が確認されていることや、刀が出土しているなど、本遺跡のものとは異なったあり方を示している。

被葬者の階層についてみると、泉崎浦遺跡では明らかにされていないが、新妻家墓地では武士階級、下藤沢II遺跡では庄屋クラスの墓域であったことがそれぞれ判明している。

以上のことから、本遺跡に埋葬された被葬者の階層については新妻家墓地にみられるような甕棺墓を検出していないことや、出土遺物にも武士階級を想定させるようなものが認められないことから、庶民階層の墓であったと考えられる。また、遺物の種類やその量を考慮するならば、庶民でも下藤沢II遺跡と同クラスの階層であった可能性が高い。このことは、今回出土した人骨が「江戸時代農村型」に一致するという人類学的な調査結果とも大きく矛盾するものではない。

(10) 本市内でも山王遺跡で18世紀後半以降の墓を7基発見している。円形木棺墓、方形木棺墓、直葬墓があり、銭貨、煙管、櫛、漆器碗などが出土している。被葬者の階層は明らかでない。